

五十嵐ゆうこの米國小売業最新レポート

2022年1月14日

CES 2022!

2022年度コンシューマー・エレクトロニクス・ショー

毎年1月に全米民生技術協会がネバダ州ラスベガスでコンシューマー・エレクトロニクス・ショーCESを開催します。

業界向けでBtoBの色が強い内容の電子機器見本市を視察してきました。



当初の日程は1月5日～8日の4日間でしたが、オミクロン株の影響もあり急遽1日スケジュールは短縮されることになりました。

展示会には試作品いわゆるプロトタイプを含めた数多くの最新テクノロジー製品が出品されておりました。

2021年開催時はパンデミックだったので完全デジタル制でしたが、本年度はオンラインで開催しつつも同時に人々の入場制限を行い、2年ぶりの対面形式で行うリアル・コンベンションとなりました。

最終的に現場でリアルにCESの視察が出来なかった方々の為に出来るだけ写真を多く取り入れた会場レポートとしております。

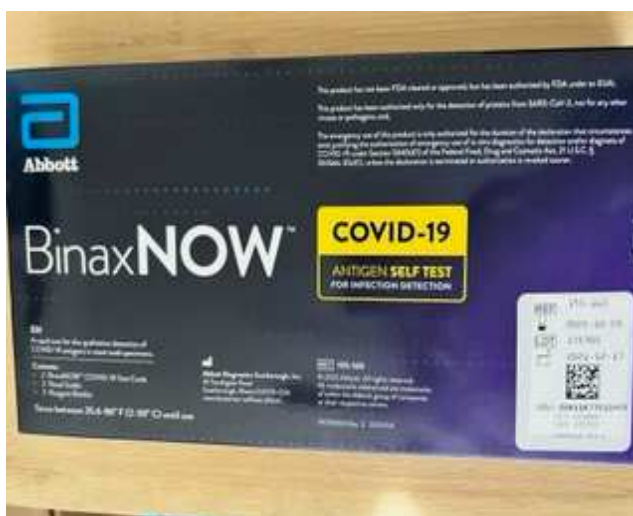
オミクロン感染拡大前の段階で2022年の展示は2800社の予定でしたが、直近の発表によれば今回はAIやデジタルヘルス、スマートホーム等800社を含んだスタートアップ企業2300社が出展したとのことでした。

世界各地で感染者は急増していますが、来場者は4万人を超え、その中の3割は米国外119か国から来場された方々とのことでした。



事前登録時に入手できるバーコードがあり、当日の会場でバーコードと入場バッジを交換しますが、その前に入場規制として接種完了済のワクチン証明とPCR検査の陰性証明のチェックが必要となります。

PCR検査に関しては、およそ15分位でセルフチェックが可能な検査キット2回分を空港及び会場受付で無料支給されました。



会場内でマスク着用は必須です。

入場の際は、バッジと免許書やパスポートの身分証明のチェック及びカバンの中身のチェック等、空港で通常行うボディスキャンを求められる入場口もありました。

会場は Las Vegas コンベンションセンターと Venetian Hotel に分かれており、まず Venetian Hotel の会場から入場しました。

AR や VR を駆使した仮想空間でのコミュニケーションやサービスとして話題のメタバース、また、あらゆる場所でロボットが当たり前のように展示され、

赤ん坊から介護を必要とするお年寄りまで人間の代わりにロボットがお世話してくれます。





人間のプロ・マッサージ師のストロークさながら全身を施術するロボットのデモンストレーションは特に圧巻で、その絶妙な動きを見ているだけで、なぜか私の体がほぐれていく感覚がありました。

今年の会場で多いと感じたものは、”Sleep Tech (快適な睡眠を補助する技術)”でした。

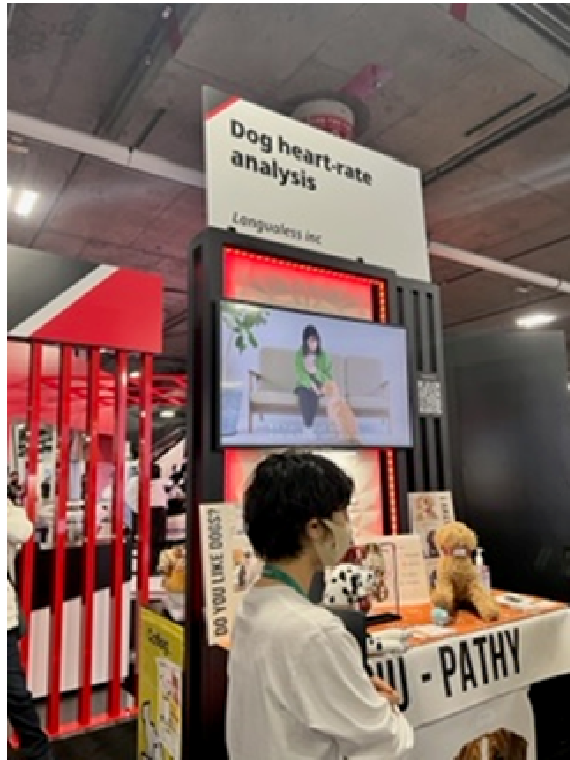


日々の睡眠を改善することでストレスを始めとした未病を防ぎ、ダイエット効果も兼ね備え、ハイテクマットレスはウェアブルの腕時計と連携し、睡眠と健康をサポートするアプリや個々の睡眠状態に合わせていびきを改善する枕等、とにかく数多くの商品が”睡眠”をテーマに出展していました。



近年、ヘルス&ビューティ業界で話題となっている女性の健康課題をテクノロジーで解決する”Fem Tech”(フェムテック)やペットフードや見守りカメラ、トイレタリー等の商品にテクノロジーを掛け合わせることで包括的に健康面まで管理する”PetTech”の出展も増えていました。





数年前から話題の金融とテクノロジーを融合した”FinTech”は、オミクロン感染の影響もあり、ブースでちらほらと空席が目立ち 2020 年と比べるとやや出展数が少ない感じでした。





時期的に注目を集めていた商品はバイオセンシング技術を駆使して所定の空気を分析し、その空気中に含まれる蛋白質を認識することでコロナウイルスが存在する場合は、警報を出すシステム “ViraWarn”でした。

この機器がとても優秀な点は、警報のみならず同時に消毒も行うことです。これは新型コロナだけではなく、その他の毒性のある化学物質や煙なども検出可能で優先的に高齢者施設や病院、学校、閉鎖された空間である航空機内などでの使用を進める予定となっており、この導入が拡大すればクラスター防止にも繋がります。



スタートアップを含むアジアから集まった Japan Tech コーナーには、帰国後の強制隔離にもめげず日本から出席されていた方々がおられました。

日本の SkyDrive 社が開発し、2025 年の大阪万博に実地飛行する予定である空飛ぶ自動車にも初乗り致しました。



幼い頃に夢見たアメリカのアニメ『宇宙家族ジェットソン』の世界が、とうとう現実になるのです！

先週 2022 年に注目される外食業界のトレンドについて労働者不足を改善するため、人間にとって代わる“ロボットの活用”についてレポートしましたが、CES の“FoodTech”コーナーでも沢山のロボットが登場していました。



労働者不足を改善するため人間にとって代わる“ロボット活用”について触れましたが、CESでも“Food Tech”コーナーでロボットが多く登場していました。

また、プラントベースの代替肉の拡大の話題も取り上げましたが、シイタケの菌糸体をプラントベースの豆や野菜と合わせる事で、肉の触感をリアルにする展示コーナーに人々が集まっていました。



その他“Smart Home”や3Dプリント、フーチャー・カー等々、レポートでは伝えきれない数多くの出展があり、盛り沢山の内容だったCES2022でした。

今回、私が一番興奮したのは“Vegas Loop”と名付けられた会場から会場へ移動の際、地下に掘った白いトンネルをEV車Teslaで移動してくれるサービスでした。

ベガスはとにかく土地が広いので、同じコンベンションセンターの敷地内でも会場から会場へ移動するだけでも徒歩20分近くかかります。

それを僅か1分ほどで移動できたので、とても時間を有意義に使用する事ができました。

Vegas Loopのサービスは現時点では人間のドライバーが運転していましたが、近い将来、本格的な自動運転を導入しドライバーレス（無人運転）となる予定で最寄りの国際空港から会場までの移動も可能とのことでした。

この模様はYou Tubeでも動画をアップしていますのでご覧ください。

2023年は1月5日から8日まで開催されるそうです。是非、Teslaでの移動も含めて来年こそはCESにご参加くださいませ！

